NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター　イデア

2014

12月号

つながり×ひろがる　　いちのせき市民活動センター

～ もくじ ～

2｜二言三言~ 魅力ある地域農業の姿を描く ~

4｜団体紹介~ NPO法人一関のなかなか遺産を考える会 ~（一関）

5｜地域紹介~ 渋民第10区自治会 ~（大東）

6｜企業紹介~ 有限会社かさい農産 ~（川崎）

7｜センターの○○~ 地域づくりハンドブックマスター講座の裏側 ~

フタコト×ミコト

第7回　二言三言 11/124,582

魅力ある地域農業の姿を描く

対談者　いわて平泉農業協同組合　代表理事組合長　**鈴木 昭男**　さん
聞き手　いちのせき市民活動センター センター長　**小野寺 浩樹**

東西の特徴と農業の今を説く

【小野寺】今回はＪＡいわて平泉の組合長である鈴木さんに、「地域とは」、「地域との連携」、「農業振興」等についてお話をお聞きしていきたいと思います。

今年の３月にＪＡいわて南とＪＡいわい東が合併し、現在のＪＡいわて平泉が誕生しましたが、鈴木さんは、新しいＪＡとして今後どんなまちづくりをしていきたいと考えていますか？

【鈴木】ＪＡの場合は、まちづくりというよりも「郷づくり」という考え方があります。ＪＡいわて平泉が作成した農業振興計画には、「黄金の郷づくり」のための、３年間の事業計画がまとめられています。その計画に関係することで、東磐井と西磐井の農業の違いについてお話しすると、西の生産の主体は米ということに対して、中山間地域である東では果物・野菜・菌床栽培に加えて、畜産や園芸が主です。東と西は合併しましたが農業の基盤が違いますので、それぞれが行ってきた農業の形を継続させながら運営を行っていきたいと思います。

あとは、今年は米の価格が下がりましたが、これは当分続くのではないかと思います。この危機に対してＪＡでは、個人でお金を出さなくても運営できるような後継者づくりのために、農業型の出資法人をつくりたいと思っています。一関・平泉の米の収入額は、去年と今年を比べて１８億円も減りました。これは、両磐地域の酪農家の全所得と同じ金額なんです。

今まで米作りを行ってきた農家も年をとれば米作りができなくなり、耕作しない農地が増えてしまいます。そうするとやはり、集落営農に切り替えるか、もっとしっかりした法人をつくらなければ運営できなくなると思います。それを今後、私達がさらに力を入れて手がけていきたいと思っています。

それから後継者について、新しく農業を始めたいという若い方からの相談が年に５～６件あります。都会から農業を行いたいと来る方にはある程度の農地を貸したり、研修施設の設置を考えています。今のところは畜産・園芸農家の方に頼んで行っていますが、その一連のことがＪＡで行えるようにしたいと思っています。

【小野寺】「郷」というのは素敵な響きだと思います。「まち」とか「村」という言葉もありますが、郷は人

の生活があるという印象がすごくあるんですよね。郷に人が住んでいて、人が住んでいる近くに田や畑があって一次産業のある営みを行っていく場かなと思っています。地域で様々な課題を抱えている中で、ＪＡさんのバックアップがあることは強みだと思います。

【鈴木】ＪＡが目指す「郷づくり」とは、自分が一つ、あるいは共同の農地を持って所得を分配するという考え方です。高齢化で農業から離れる方が多い今、若い方達には魅力ある農業を行ってもらいたい。魅力ある農業の中では、農家所得を上げるということ。それが私達の仕事であり、郷づくりの基本的な考え方になっていくと思います。

農業と商工業の連携を促進する

【小野寺】では、魅力ある農業のために、他にどんな取り組みを行いたいと考えていますか？

【鈴木】農業は一次産業だけでは守り続けられません。ですから六次産業化にしたり、輸出までも想定した経営を考えていかなければなりません。ＪＡでは、地域で生産された農畜産物の付加価値を高めるための加工施設を置き、販売の責任をもつという所までを行いたいと思っています。よりよい加工施設を造るために、地場の企業さんに相談する等、農業と商業の連携を大切にしていきたいと思っています。

今まで農業祭りを行ってきましたが、昨年からは千厩だけ「農商工祭り」として行いました。

【小野寺】それはいいですね！最近は農業分野の話になると、すぐに六次化という話が出ます。しかし六次化と言うのは簡単、行うのは難しいと思うんですよ。やはり一関で一個人の農業者が取り組んでいくには農商工の連携が必要だと思うんですよね。時代が進む中でいつしか縦割りになりましたが、これからはちょっと昔に戻りつつ、良い物をつくりましょうという時代に変わってきたんだろうと思います。

農畜産物の付加価値を高めるために

【鈴木】今までは、モノを作るのは農家さん、それを集めて流通するのはＪＡと役割を分担してきました。しかし最近は、ＪＡだけではなく生産者の方も市場研修に参加していただいております。これからは生産した商品の付加価値を高めるために、どのようにして流通を太いものにしていくかというところが大切なんです。

【小野寺】ＪＡさんだけが流通のルートをつくるのではなく、ＪＡさんが「司令塔」となり色々な流通先を確保し、あとは、農業者の方々がそこに乗っていくという形をとってもいいわけですよね。そう考えていくと、ＪＡさんの職員の皆様は一人ひとりが司令塔的な存在だし、コーディネート力が大切になると思います。農業者の方に対して、提案型の関わり方ができる職員さんが大事なんだなと思います。

【鈴木】実は、ＪＡが今まで行ってきた「農業指導」は、技術指導と管理指導だけなんですよ。流通やバイヤーに関する指導はできていません。素直にそこを反省し、もう一度新しい農業指導の形をつくっていかなければならないと思っています。

【小野寺】僕からぜひ、ＪＡさんにお願いしたいのが「夢を見させていただきたい」ということです。先日参加した視察研修先で、農業の成功事例を聞いた時の一関の方の感想に夢がなかったんですよ。50～60歳代の方が夢を持てないと、若い人達も夢を持てないと思います。若い方の「私これやってみたい！」に対して、経験者の方が「なに、そんなのやったって」と出る杭を打つのではなく、出る杭はもっともっと伸ばしてもらいたいんです。せひＪＡさんの「黄金の郷づくり」計画の中で、農業を基盤とした夢を持たせる取り組みをしていただきたいなと思います。本日は貴重なお話を聞かせて頂きどうもありがとうございました。

基本情報

【いわて平泉農業協同組合】
住所　〒021-0027　一関市竹山町７番１号
TEL　0191-23-3006　FAX　0191-21-0242
紙面で紹介しきれなかった部分は、「こぼれ話」としてブログに掲載しています。
URL blog.canpan.info/ichinoseki/category_15/1

ＮＰＯ法人一関のなかなか遺産を考える会

団体紹介

阿部 眞昭 さん(一番左の男性)
阿部 えみ子 さん(中央)

～基本情報～

◆理事長：阿部 眞昭　さん
◆連絡先：株式会社 あべ建築開発
〒021-0101 一関市厳美町沖野々145-2
◆電話：0191-29-2511

歴史が詰まった思い出の校舎を守る

「美しい学校だ」の一言から始まる

63 年間の歴史に幕を閉じ、2013 年に閉校した達古袋小学校。今もバスが通らない田舎で、昔ながらの里山の風景の中に佇む校舎は、木造平屋建てで横幅が 119ｍもあり、広い校庭からは青空と森林を背景に校舎の端から端までを一望することができます。今回はこの校舎を守り、歴史や魅力を伝え発信するＮＰＯ法人一関のなかなか遺産を考える会の阿部眞昭さんと阿部えみ子さんにお話を伺いました。

活動を始めるきっかけになったのは 2009 年一関市内にある５つの木造校舎の耐震診断とのこと。その際、阪神淡路大震災後に耐震診断を世に広めた東京大学の坂本功名誉教授と腰原幹雄准教授（現在は教授）に耐震診断の指導を依頼。来関したお二人が、達古袋小学校を一目見て「美しい学校だ」と言った言葉が全ての始まりでした。当時は廃校前に校舎の半分の取り壊しが決まっている状態だったため、「今のままの校舎を残したい」という想いで活動を開始。市から一年間の猶予期間をもらい、校舎を活用した講座や講演会、住民との懇談会を繰り返した結果、119mの校舎がそのまま残ることになりました。

「達古袋小学校で朝顔の種を植え育てる“明後日あさがおプロジェクト”の活動では、地域の子どもからご年配の方までが参加してくれたし、住民懇談会では『自分達の親が苦労して造った学校だから、本当は残したいんだ』という言葉を地域の方からいただきました」とえみ子さんは振り返ります。

校舎が伝える達古袋の歴史

達古袋小学校の校舎は、地域の人達が我が子のために、土地や必要な資材・労力を提供して造りあげたという歴史があります。

「かつて、地域住民が一丸となって造り上げた建物であり、ここでたくさんの生徒が学び、思い出がつまった場所です。しかし、時が経つにつれ気持ちが薄らいできます。建物が残っていれば、その想いを後世に伝える役割を担うことができます」とえみ子さん。

市内の「なかなか遺産」を発掘・保存へ

団体名でもある「なかなか遺産」とは、どこにもない特異性をもち、国の重要文化財や世界遺産には認定されないものの、地域や人々に多様な恩恵をもたらすことから「なかなかだなぁ」と見る人を唸らせる共有の財産のことです。今年８月には、達古袋小学校の歴史的・景観的価値が認められ、国際なかなか遺産委員会より世界第一号となるなかなか遺産に認定。達古袋小学校のニュースは全国紙の新聞にも掲載され、遠方からも見学に来る等の広がりを見せています。

達古袋小学校に限らず、市内には地域の歴史を伝える歴史ある建築物が多くあります。しかし、予算や利便性の問題等から古い建物は壊されてしまっているのも事実。同団体では、達古袋小学校以外にも、市内のなかなか遺産を発掘し残すために、建築物の保存や景観に関する勉強を行いながら、地域の建物の魅力を全国に広めていきたいと今後の抱負を語りました。

正面から見た達古袋小学校の風景

大東町　渋民第１０区自治会

地域紹介

会長　菊池　紘一さん

～基本情報～

◆自治会長：菊池紘一さん（2 期 4 年目）

◆渋民第 10 区自治会の会員は 76 世帯 284 人で、地理的には大東町渋民地区の中央に位置しています。

誕生から百寿まで、地域で祝う温かさ

今できる活動を大切に

東に室根山、西に東稲山、北は蓬莱山に囲まれ、砂鉄川が緩やかに流れている大東町渋民地区。明治 6 年に開校された歴史ある渋民小学校が、時代の流れと少子化の影響もあり、平成 25 年 3 月、地域の方々に惜しまれながら閉校。同年 4 月から大東小学校と統合になったことは記憶に新しいところです。その中央部に位置する渋民第 10 区自治会は、体育部・文化部・生活環境部・納税部・自主防災部（兼自治会運営委員）の 5 部編制で、会員が出来ることをできる範囲で無理なく続けられるよう、活動・運営しています。

すでに 10 年以上も続けているという「体力づくり運動会」は、毎年 12 月に冬場の運動不足解消を目的に体育部が中心となり行われ、住民らは交流を深めています。生活環境部は、お楽しみ敬老会の開催や清掃活動への呼びかけ及び実施を行っており、今年から「いわての川と海岸ボランティア活動等支援制度」を利用し、自治会住民による砂鉄川の清掃にも力を入れました。「この取り組みは、生活環境部長からの提案があって実施しました。自治会の話し合いにこのような提案が上がるのは嬉しいこと。地域環境に目を向け今後も無理なく、他の活動とともに継続していきたい」と菊池さんは活動への意欲を語ってくださいました。

集える場所、あります！！

同自治会の活動拠点は平成 4 年に建てられた中央会館。自治会活動での使用の他、子ども会活動やサロン活動などにも使用しています。また、最近集落の若者から「会館を自分たちも自由に使っていいのだろうか？」と声があがり「いいよ。いいよ。どんどん使って」と答えたとのこと。「実際、この集落には夜若者が集えるような飲食店はありませんからね。自治会館は自治会の建物ですが、自分の住んでいるところに自然に集まれるところがあるというのが大事なんですよ。そこから徐々に自治会活動に参加してもらえればさらに嬉しいですね」と語り、「市内各地から聞こえてきますが、若者の自治会活動への参加は我が自治会でも課題ですね。若者を、どうひっぱり出し参加してもらえるか…やはり飲みニケーション（コミュニケーションの一つとしての飲み会の略）かな？」と笑顔で続けます。

若いころは地元を離れていた菊池さん。平成 5 年頃から地域イベントに参加しながら少しずつ故郷との距離を縮め、平成 10 年に帰郷しました。現在は、自治会長歴 2 期 4 年目で、渋民地区の振興会会長も務めており、日々地域のために尽力しています。

祝い事もみんなで共有

自治会規約を拝見し、私が大変びっくりしたのは「慶弔規定」。お悔やみの他、結婚・誕生など集落でお祝い事があれば自治会からのご祝儀があります。さらに平成 24 年に百寿を迎えた会員を祝う為に「百寿の祝い」を新しく設けたとのこと。「集落での結婚、誕生など御祝事は住民にとっても嬉しい事ですね。さらに百歳を迎えるという事は、それまでのご苦労を労うと共に、この地域でご活躍され我々の土台作りをしてくださった感謝です」と菊池さん。この改定後、はじめて百寿のお祝いをした方は現在 103 歳。そして近々百歳を迎える方は現役で農業を行っているとのこと。自治会の「慶弔規定」には、相当つながりの深い集落なのだなと感じるとともに、長寿の秘訣がなんとなく地域環境から感じる取材でした。

自治会報は年 4 回発行
10 年以上続いています

有限会社　かさい農産

企業紹介

代表取締役会長
葛西信昭さん（左上）
従業員のみなさん

～基本情報～

◆代表取締役会長：葛西　信昭　さん
◆連絡先：〒029-0201
一関市川崎町門崎字川崎 65-10
◆電　話：0191-43-3124
◆ＦＡＸ：0191-43-3124
◆ＵＲＬ：http://www.kasainousan.com/

従業員一人ひとりが輝ける環境づくり

共生持続的な農業への発展

一関市川崎町門崎で、主に葉物（小松菜、ほうれん草、水菜等）を中心とした 15 種類の農作物を生産販売し、県内で唯一ＪＧＡＰ認証（食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証）を取得している有限会社かさい農産。「農でつながる　農で輝く」を経営理念とし、従業員一人ひとりが自身の経験・能力を活かし、安全な農作物を生産し提供しています。

もともと、養豚業を営む家庭に生まれ育ち、20 年以上にわたり先代の守ってきた養豚に従事。その後、野菜流通の仕事を通し、平成 15 年 12 月に現在の野菜作り専門の農業法人を設立しました。最近よく耳にする「ごぼう茶」は、同社主力のオリジナル商品でミネラル成分たっぷりの川の砂地を利用したごぼう栽培と従業員の愛と研究を重ね、県・市内外でも人気の商品です。葉物商品を取り扱った同社がごぼう茶製造・販売に至るまでには「昔ながらのおばあちゃんの知恵」と会長の葛西さんは笑顔で語ります。

ひらめきは近所のおばあさん

「実は以前、糖尿病を患ってね。どんどん体重が落ちて入院しなきゃいけない状況になった時、近所のおばあさんたちが、『“ごぼう茶”を飲んでいたら血糖値が安定してきたみたい』という話を聞いて従業員が当社のごぼうを使ってごぼう茶を作ってきてくれたんだよ」と葛西さん。川崎町に流れる北上川の性質は、昔からごぼうの栽培に適しており、先人の知恵としてそれを煎じお茶にして健康維持の一つとしてきました。「お茶を飲んでいるうちに、入院しなくても大丈夫なくらい、体調が安定してきたんだよ」と葛西さんは当時を振り返ります。その後、行政の方の後押しやお客様からの「商品化したほうがいいよ」というお声がけがあり、従業員の熱心な開発とこだわりで平成 24 年から商品化となりました。「私達はただ野菜を作って販売するだけが目的ではありません。地域の食文化や伝統を継承するとともに、多くの方々とつながりを深く持ち、地域雇用を保ち安心安全な農作物を地域の方、全国の皆さんに発信していきたいのです」と語り、「自信を持って自社農作物を最終消費者に届けたりつながりを深めたりするには、自分たちも輝いていないとね」と満面の笑みで続けます。

新しい農業と雇用体制

同社の従業員 17 名は、ほとんどが市内から採用。現在産休中の方が 2 名おり、20～30 代が 9 名、60～70 代が 6 名と幅広い年齢層、そして子育て真っ最中のお母さん方も生き生きと野菜作りに従事しています。また、就労継続支援Ａ型事業所として一般社団法人「やさいサラダ」を立ちあげ、障がいを抱えた方々も安心して従事できるよう体制を整えています。「企業が少ない中、子育て中のお母さん方は仕事を見つけることすら大変。高齢者の方や障がいを抱えた方も同じです。では、どうすれば雇い側も従事側も安心して職につくことが出来るか。人にはそれぞれ価値観があります。それをお互いが認め、どんな人でも地元の職場で輝けるように、それぞれが抱える事情に応じてサポート、仕組みをつくるのが私の役目であり、そのことを私は消費者、従業員を含め皆さんから気付かされているのです」と語る葛西さん。

従業員の方々がのびのびと笑顔で作業している姿を拝見し、葛西さんの言葉に私も気付かされることが多く学びの取材となりました。

ごぼう茶は食物繊維たっぷりでお肌もツルツル。

センターの○○！

まる　まる

―地域づくりハンドブックマスター講座の裏側―

地域づくりって何をすればいいんだろう？ 始めてみたけど、どうしたらいいかわからない…。「地域づくり」とは言葉では言い表せても、いざ始めるとなかなか難しいものです。当センターでは、地域づくりで困った時に「これを知っていると良いことがある！」という項目をまとめ、２０１３年に「地域づくりハンドブック」を発行しました。この本を教科書に、千厩を会場にして行った全４回の講座をご紹介します。

1 地域づくりとは／地域づくりの進め方

1時限目

第１時限目は「地域づくりとは」「地域づくりの進め方」。参加者一人ひとりが「地域づくりって何？」と聞かれた時に、自分なりの想いを答えられるようになってもらうべく、押しつけではなく、‘考えてもらう講座’を目指しました。

2 話し合いのしかた／ファシリテーション

2時限目

地域づくりは、いまや住民合意が求められています。誰かの意見で進めるのではなく、みんなで決めて進める・・・そのためには、どんなコツがあるのか？参加して満足する会議の進め方をお伝えしました。

3 事業の進め方／助成金の使い方

3時現目

‘小学４年生にもわかる’、‘少しも眠くないわ’を目指した「事業の進め方」は、ネタに走り過ぎて「ほどほどにね」というアンケート結果を頂く事に。「助成金の使い方」の方は皆さん興味津々で、熱心に耳を傾けていらっしゃいました。

4 情報発信のススメ／広報誌の作り方

4時限目

ラストは紙媒体・インターネットを使った情報発信のコツ等をご紹介しました。写真を撮る時の「黄金比」をご存じですか？基本的なワードの解説から事例紹介まで、普段の活動からスタッフ自身が学んだことをご紹介しました。

講座を終えて

千厩を会場にして行った今回の講座には、自治会長さん、地域の協議会の方、ＮＰＯ団体の方等、様々な所属の方にご参加していただきました。実は今回初めて講師を務めたスタッフが２名おり、前日の夜は眠れないほど緊張したそうです。不慣れな説明でも温かく見守っていただいた皆様、どうもありがとうございました。

後期は、一関のなのはなプラザを会場に、1 時限目は 12 月 6 日、2 時限目は 12 月 13 日、3 時限目は 1 月 17 日、4 時限目は 1 月 24 日に行います。

おしらせ

室根　中津谷川イルミネーション

冬の津谷川地区をロマンチックに彩るイルミネーションを行います。帰省した方も楽しめるようにと、正月三が日まで点灯します。期間限定の風景をお楽しみください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【期間】平成26年11月23日(日)～
平成27年1月3日(土) 17時～21時
【場所】室根町津谷川字本宿地区
【料金】見学無料
【問合】中津谷川イルミネーション同好会
【電話】0191-65-2352／担当 佐藤

東山　冬のこたつ舟と屋形舟を運行します

こたつで鍋を囲みながら冬の猊鼻渓を観光する、屋形舟とこたつ舟を運行します。雪化粧をした美しい渓谷の眺めを皆で堪能しましょう。乗船には、事前申し込みが必要です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【期間】平成26年12月1日(月)～2月末
9時30分～15時
【場所】猊鼻渓 乗船場発着
【料金】3,300円～5,500円(舟代・食事代)
【問合/申込】(有)げいび観光センター
【電話】0191-47-2341

大東　特別講演会「近代東北の裁縫教育と教師群像」

明治15年に大原裁縫学校を設立し、裁縫教室をはじめ女子の節操教育、一般教養等を教えた冨永シゲヨ氏、裁縫を教え女子の就学率向上に貢献した朴澤三代治氏を中心に、東北学院大学教授の菊池慶子さんが講演を行います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成26年12月6日(土)13時30分～15時
【場所】渋民公民館
【料金】聴講無料
【問合】場所と同じ
【電話】0191-75-2706

一関　いちのせき100万人のキャンドルナイト2014冬至

油から手作りしたあたたかいエコキャンドルの灯りの中で、幻想的でスローな夜を過ごしましょう。会場ではクリスマスリース作り、座禅ヨガ、メーキャップ教室等も行います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成26年12月6日(土)17時～19時
※17時から点灯式を行います。
【場所】あいぽーと
【料金】無料
【問合】一関世代にかける橋
【電話】0191-23-9721

千厩　Hana金

地域づくり活動において、困っていることはありませんか？いつでも・誰でも・どんなことでも話せる場所があります。話に花咲く金曜日＝「Hana金」第２金曜日の夜にお待ちしています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成26年12月12日(金)
19時～20時30分
【場所】いちのせき市民活動センターせんまやサテライト
【料金】初回100円 2回目以降300円
【問合】場所と同じ
【電話】0191-48-3735

川崎　てんとう虫教室

調理実習やアート創作活動を通じ、障がいを持っている方と地域の方が交流を深める「てんとう虫教室」を開催します。12月16日は調理と遊書づくりを予定。皆で楽しく交流しましょう。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成26年12月16日(火) 10時～15時
【場所】川崎公民館など
【料金】参加無料
【問合】工房てんとう虫
【電話】0191-43-4733

花泉　大祓式・冬至祭

一年の災禍を祓い一陽来復を祈願する「大祓式・冬至祭」を行います。茅の輪くぐりや祭典への参列を体験してみたい方は無料でご参加できますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成26年12月22日(月)11時～
【場所】御嶽山御嶽神明社
【料金】初穂料 4,000円（直会、柚子、福迎え守、初夢宝船を授与致します）
【問合】場所と同じ
【電話】0191-82-3382

藤沢　第33回 藤沢町子ども郷土芸能発表会

藤沢町内で保存・継承されている郷土芸能を、小学生がステージで発表します。出演団体は本郷神楽保存会、下大籠南部神楽保存会、徳田田植え踊り保存会等６団体を予定。子ども達の練習の成果をぜひお見逃しなく！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成27年1月11日(日)9時開演
【場所】一関市藤沢文化センター縄文ホール
【料金】入場無料
【問合】藤沢公民館
【電話】0191-63-5515

一関　写真記録集 一関の年輪Ⅲ いちのせき再発見

大正･昭和･平成の一関の街並みや暮らしぶり、名所、災害、戦争等の歴史を650余点の資料写真で紹介する「いちのせき再発見」を販売しています。附録には一関町市街図（昭和４年発行）がついています。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【発行】一関の年輪刊行委員会
【販売場所】(株)一関プリント社
【料金】2,000円(税込み)
【問合】販売場所と同じ
【電話】0191-23-4586

今月の表紙

この写真は、大東町鳥海地区にある「小森塾」の写真です。蘭学者高野長英が地元の子ども達に漢字を教えた場所として知られ、建築から200年経った今でも、地元有志の方により修復・保存がされています。

Q&A　あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q 「ファシリテーション」って何ですか？

A ファシリテーションとは､｢引き出す力｣のことをいいます。語源「ファシル」には、促進する・支援する・助長する等の意味があり、話し合いの場において、中立的な立場から参加者の気持ちや意見を聴き出し、成果が最大となるよう支援する人をファシリテーターといいます。

発行■いちのせき市民活動センター　〒021-0901 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F TEL0191-26-6400 Fax0191-26-6415
せんまやサテライト　〒029-0803 千厩町千厩字町149 TEL0191-48-3735 Fax0191-48-3736
ブログはコチラ